

図書館forum

図書館の役割について	田村 信介	1
医学図書館のこの2年を振り返って	赤木 好男	3
福井大学附属図書館蔵書の電子化について	澤崎 久和	5
■ 福井大学附属図書館所蔵の古典籍 (5)		
田安徳川家旧蔵本『詩人玉屑』	膽吹 覚	7
■ 私の推薦書		
女性をとりまく貧困と暴力ー直視し、世界を変える力にー	羽田野慶子	9
私の愛読書	菊田健一郎	10
「英語、勉強しなきゃ」と感じてませんか?	吉田 俊之	13
附属図書館展示企画		15
田嶋記念大学図書館振興財団助成金を受け 展示ケースを購入しました。		17
図書館主要行事		18

図書館の役割について

附属図書館長 田村 信介

たむら・しんすけ

インターネット等の普及によって必要な情報が簡単に手に入るようになり、大学図書館の役割が問われています。関係者の会合でも「図書館の新たな役割は何か」、「図書館が生き残るには」などの話題がいつも挙がります。しかし図書館でこそこそできる重要な役割は多くあり、生き残りが図書館の目的ではないのですが、それらの役割を果たすために図書館を消えないようにして日々良くすることが我々図書館員の使命だと思っています。重要な役割には、1) 図書に関する高い品質のサービス提供、2) 物や人と触れ合う機会の提供、3) 多様な情報を生かす方法を学ぶ場の提供、が含まれます。

図書に関するサービスの品質については、インターネット等を介して短時間で多くの情報が手に入るようになっていますが、それだけの情報で十分であるかどうかを知るすべはありません。また情報の真偽の保証は無く、著作権などの問題を含んでいることもあります。図書館の持つ情報収集、検索、評価の機能をさらに高めて提供することによりこれらの難しさが軽減され、学習や研究の効率と質の飛躍的な向上が期待できます。多くのマスコミや出版社も情報の質が差別化の鍵と考えており、e-journalを発行している出版社はその品質を武器に利益を伸ばしています。しかし1つの大学であらゆるサービスの質を維持するのは難しく、特定の分野やサービスに優れた大学が協力する形が近未来の姿になると想像しています。附属図書館でも注力すべき分野、サービスを想定して能力を

高めたいと思います。

物や人と触れ合う機会については、さまざまな図書に触れ、また知らない人とでも安心して会話できるような場所は大学の図書館だけではないかと思っています。自らが能動的に選択した出会いが主なインターネットなどでの交流の場とは違い、(時には)意図しない形での人や物との図書館での出会いは(図書館では嫌な人とでも顔を合わせなければなりません)、物作りの経験と同じように凡人が考えているだけでは気づかない新鮮で幅の広い知識を与えてくれます。読もうとしていた本の隣に並んでいた本来なら関係の無い本から将来を拓く知識を得たというような話はよく耳にします。また少し前のテレビ番組で物理学者と数学者がたまたま隣り合わせたことから素数の分布とエネルギー準位に関係がありそうなのがわかった話が紹介されましたが、多くの新しいアイデアもこのような偶然の出会いから生まれています(このような出会いから得た情報はもちろん多くの誤解を伴いますが、個人的な経験ではこのような誤解はさらに独創的なアイデアにつながります)。図書館はこのような機会をできるだけ多く作れるように飲食可能なスペースを設けています。また図書に関連する展示会を定期的に開催したり、定期的ではありませんが学科やサークルに活動成果発表の場を提供したりしています。来年度からは試験的に各学科に学科のPRや学生あるいは教員の成果発表などの企画作りをお願いしたいと考えています。理想は「あの先生に

用があるのなら何時ごろに図書館に行けばいつも雑誌を見ている」というような環境の実現です。

最後に、人や本と出合える環境をもっと組織的に活用して教育の場にしようと多くの大学の図書館が試みており、附属図書館でも learning commons の確立を目標に挙げています。学生の卒業論文などを読んでみると、もう少し体系的に指導する時間や力があったら良いのと思うことが多くあります。図書館は多様な手段で得られる情報を一番身近に感じられる場所であり、情報を収集、分析、評価し、その結果をまとめる、発表する、また時には会議を招集してディスカッションするなど情報リテラシーを学

ぶ最も適した場所を提供できると考えています。少し前までは企業が多く時間をかけて社員にこのような教育を行っていましたが、最近では（特に中小の企業には）余裕がなくなり、大学だけがこのような教育を実施できる場所になってしまいました。残念ながら現在の図書館に教育を担当する能力はありませんが、各学部などの協力を得てこのような場所の実現に努めたいと思います。「福井大学の卒業生ならすぐに課長を任せてもよいぐらいだ」と言われるような人づくりに貢献するのが目標です。

(大学院工学研究科情報・メディア工学専攻メディア・情報処理 教授)



医学図書館のこの2年を振り返って

医学図書館長 赤木 好男

あかぎ・よしお

私が医学図書館長を拝命した平成21年は総合図書館が耐震増改修を3月に竣工、6月に華々しくリニューアルオープンし、「郷土の歌人 山川登美子展」が開催された。そのころ、福井大学マスタープランに医学教育ゾーンとして医学図書館増築及びチュートリアル棟の新営が計画され、本学予算で医学図書館の増築を行うことになった。計画は医学部生の試験期間は混雑することが多く、学生からは座席数を増加する要望が多かったことから、それに応える形での増改築となった。

平成22年3月30日に医学図書館のリニューアル記念式典が開催され、福田学長から「医学図書館の充実によって、大学の教育、研究などに大きく役立つ」との挨拶をいただいた。また、記念展示として、「医学図書館のあゆみ」展を開催し、沿革や医学図書館所蔵の貴重資料を紹介した。

4月1日にリニューアルオープンした。今回の増築で座席数が82席増えて287席となり、日中の建物内は日光が燦々と差し込み、心和む明るい雰囲気となっている。1階には、コミュニケーション・検索・展示のスペースを持つラウンジ、また、福井県の医学や本学関係の資料を収集・保管し、活用できる福井県医学資料室が新設されたほか、2階には休憩コーナーもあり、勉強の合間のリフレッシュに最適な環境が整備された。

平成22年の夏は猛暑であったが、医学図書館も熱い夏であった。というのも、チュートリアル棟が医学図書館の小規模閲覧室として増築することに決まったことである。正にマスタープランの変更ということで苦労したが、平成23年秋には、講義棟の横に医学図書館小規模閲覧室棟が完成することになっている。

小規模閲覧室は14室で、利用は学生の国試



小規模閲覧室完成予想図

対策のためのグループ学習の場およびチュートリアル等の授業に使う計画をしている。また、管理運営については施設の費用対効果と学生生活実態に合った開館時間等を検討している。

いずれにしても学生諸君にとってすばらしい学習環境が整備されるので、マナーを守って大いに勉学に励んでいただきたい。

次は、平成 22 年 6 月に閣議決定した「財政運営戦略」において大学運営交付金が大幅削減されることが予想されたことであった。特に学術情報基盤である電子ジャーナル及び学術文献データベースの予算である。毎年の電子ジャーナルの値上りは各大学とも大きな課題となっている。

今回の話は、大学予算の根幹を揺るがし兼ねない。当然、図書館予算についても早々に検討し決める必要があった。特に、電子ジャーナルは当年度に購読契約をする必要があるためである。この状況では、継続は無理なことから、アクセスコスト（費用対効果）の悪い電子ジャーナル Nature グループの 4 誌(医学部), ACM(工学部)を中止せざるを得なかったことは断腸の思いである。

最後に、医学・看護の学習の場、研究情報の基地、そして地域医療や患者さんのための情報提供の医学図書館として全面的に生まれ変わることにより、大いに発展していくことを期待したい。

(医学科感覚運動医学講座眼科学 教授)

赤木医学図書館長より医学図書館のメディアルームに退職記念品として、視聴覚機器等をご寄贈いただきました。

今後、講習会や研修会等で使わせていただきます。先生、どうもありがとうございました。

寄贈目録

一、 液晶プロジェクター (EPSON)	1 台
一、 天吊り金具 (EPSON)	1 台
一、 100 インチ電動スクリーン (オーロラ)	1 台
一、 ロールスクリーン (トーソー)	7 台

平成 23 年 3 月吉日
贈 退職記念 医学図書館長 赤木好男



メディアルーム (ロールスクリーン)



メディアルーム (視聴覚機器)

福井大学附属図書館蔵書の電子化について

附属図書館運営委員 澤 崎 久 和

さわざき・ひさかず

現在、福井大学附属図書館において大きな問題となっているのは、契約金額が年々増加する電子ジャーナルの購入である。財政厳しい中ではあるが、電子ジャーナルについては全学的課題として、できるかぎり継続的な契約維持が必要であろう。しかしながら、電子ジャーナルの多くは理系分野のそれであり、文系分野はなお少数にとどまる。共通経費を用いつつ、その恩恵を受ける分野にアンバランスが生じているともいえる。そこで、これを補正する一助として、主に文系分野において関わりの深い、いわゆる電子図書館（デジタルライブラリー）の充実を提案したい。

電子図書館はすでに多くの図書館や研究機関に設けられている。その有用性についてはことあらためて述べるまでもない。本学附属図書館のホームページにも「電子図書館」が置かれており、現在 50 点近くの書籍（文書・絵図等を含む。以下同じ）の閲覧が可能である。古地図や絵図、各種文書、天文学や算学の書、英書、近代では歌人山川富美子関係の資料など、いずれも貴重である。しかし、ここに収録される書籍の点数はなお限られている。今後、一定の方針のもとに大幅に収録数を増やすとともに、提供の仕方についても、技術的な問題を含めて考える必要があるように思われる。以下に幾つかの問題について記す。

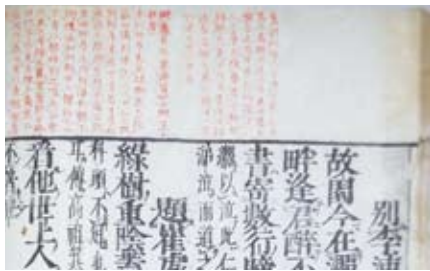
(1) 「貴重書」のみを収録するという方針をとらず、それぞれの分野において有用と見られるものをできるだけ広く収めること。大規模な図書館や特定分野の書籍を収蔵する専門性の高い図書館であれば稀覯本も少なくないであろうが、その

ような書籍のみが日常の研究対象であるわけではない。貴重書があればむろん収めるが、そうでなくても電子化されていればありがたいと思われるものは積極的に収めてよい。

(2) 地域に関わりの深い書籍は優先して収めること。これは、その地域に在る大学図書館の義務であろう。幸い、本学図書館の郷土資料室には当地に関わりのある書籍が多数所蔵されている。筆者の専門に近いものだけでも、福井の人、菅時憲の『小丘園集』や矢島立軒の『立軒存稿』など、枚挙にいとまがない。作者だけでなく出版者にも目を向ければ、幕末明治の福井の有力な出版業者、平沢潤助（広済堂）による一連の出版物、『小学読本』、『小学博物学』、『筆算五千題』、『図画教授術』などは、明治期の教育を知るのに有用であろう。なお、地域に関わりのあるものを選ぶさいには、県内の公立図書館等ですでに公開されている電子化された資料なども参考にする必要はある。

(3) 他の図書館で提供されているものとの「重複」を厭わないこと。ある書籍がすでにどこかの図書館の web 上で公開されていたとしても、それが本学所蔵のものとまったく同一とは限らない。版が異なっている場合はむろんのこと、同版であっても刷りに先後があったり、ときには後人による詳細な書き込みがあったりする。版の違いは内容の違いを伴う。たとえば、武生出身の福井藩士、関義臣の『秋声窓詩抄別集』は、明治 3 年に起きた「武生騒動」に関わる獄中体験を漢詩に表した貴重な詩集である。本書は国

立国会図書館の近代デジタルライブラリーによって明治27年刊行の初版を見ることができ、本学が所蔵するのは明治40年以降に刊行された第二版である。両者はいくつかの点で相違しており、つき合わせることによって初めて知りうる事実がある。異なった版はそれぞれに価値があるのである。本文に書き込みがある例としては、天和4年刊『三体詩』（『増註唐賢絶句三体詩法』）を挙げることができる。『三体詩』は江戸時代に広く読まれた唐詩の選集。これには多数の版があるが、本館所蔵のものには巻一に朱墨による詳細な書き込みがみられる。書き込みの内容上の価値についてはもとより別に検討を要するが、これによって本書は他館にはない一書ということになる。



- (4) 提供される画像は閲覧者が読解するに足る鮮明さを保つこと。パソコン上で拡大表示しても文字が判明しないようでは、実用に適さない。さらに言えば、収録される資料は閲覧者がプリントして手元におき、自在に活用できてこそ有用となる。技術上の問題は経費の問題とも関連するから、無理のない範囲で行わなければならないが、大事なことはそれが閲覧者に活用されることであり、また活用するに足る状態で提供されていることであろう。
- (5) 希望者には目的に応じて現物の閲覧を許可すること。研究の目的によっては、どうしても現物を見て確認しなければならないことがある。古いものほどそうである。文字の不鮮明箇所の確認はつねに必要とされるし、ときには書かれている文字のみならず、モノとしての書籍について調査しなければならないこともある。以前、明治の初めに刊行された中村正直の『西国立志

編』（サミュエル・スマイルズの Self-Help の翻訳）のさまざまな版本を国語学や中国語学の同僚と共同で収集し調査したとき、そのうちの版本の一つを web 上で知ったという方が遠方から来訪された。目的は洋装活版本の製本形態の歴史に関する調査で、こちらで所蔵していた『西国立志編』の初期洋装本の製本状態について、しかも特にその表紙の「板紙」について、現物確認にみえられたのであった。こんな研究分野もあるのかと、驚かされた。web 上で広く閲覧に供した書籍は、それを目にしたことが契機となって来館し、現物の閲覧を求める人が出現してこそ喜ばしい。書籍を電子化するのは、現物の貸出を制限してこれを保護する意味があるが、同時に現物調査を促すことにもなる。ともに大切なことである。

以上、取り上げた書籍の具体例が偏ってしまったが、多い少ないの差はあれ、有用な書籍や資料はそれぞれの分野に存在するであろう。予算に限りはあるが、著作権の問題に留意しつつ順次電子化することにより、福井大学として特色ある電子図書館が実現することが望まれる。あわせて、県内各図書館の電子化された書籍・資料については横断検索が可能となることを願いたい。

最後に余計な心配事を記せば、電子化した書籍の閲覧には再生用機器が必要である。しかし、レコードがすたれ、ビデオが再生できなくなった例を持ち出すまでもなく、機器の進歩はすみやかであるから、一旦電子化された書籍はつねに再生困難となるおそれがつきまとう。そのさいは、再度最新の技術で撮影しなおす必要がでてくるであろう。その意味で、近年話題の電子書籍はさておき、少なくとも今ある書籍はこのままの形で、言い換えれば人の肉眼のみでいつでも見ることができる形で、長く後世に伝える必要がある。電子化の役割の半ばは現在の使用の便に供することであって、蔵書を保存して良好な状態で後世に伝えるという従来からある図書館の役割は、電子化による保存とともに、今後ともきわめて重要である。

（教育地域科学部言語教育講座漢文学 教授）

福井大学附属図書館所蔵の古典籍(5)

た やすとくがわ け きゅうそうぼん し じんぎよくせつ
田安徳川家旧蔵本『詩人玉屑』

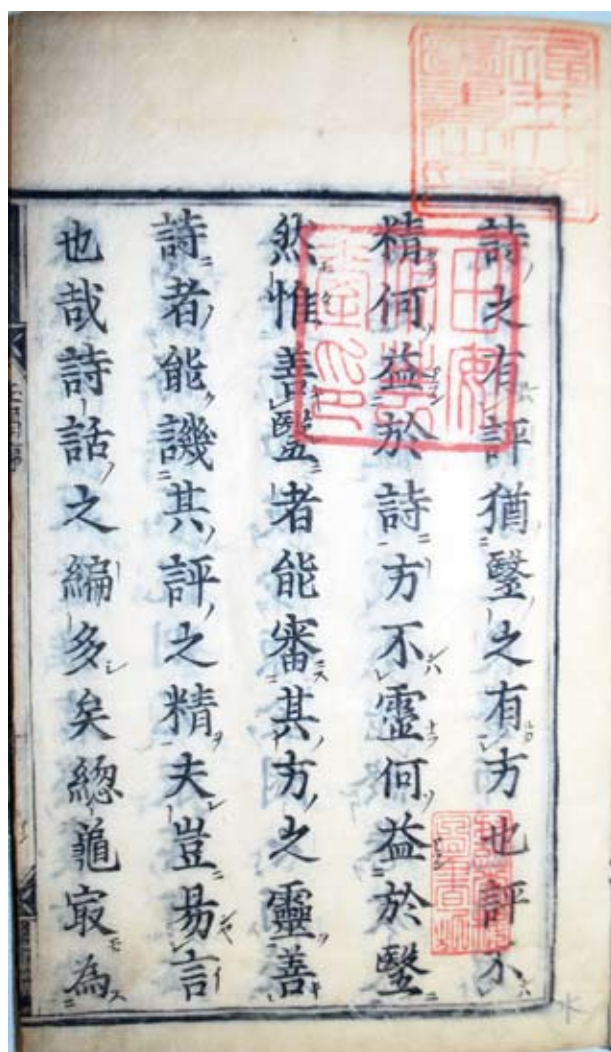
留学生センター准教授 膽 吹 覚

いぶき・さとる

『詩人玉屑』は中国、南宋の魏慶之の撰述。その内容は、中国の詩（漢詩）・詩人に関する評論や伝記を詩弁、詩法、詩評、句法など56部門に分類し、集めたものである。本書は中国詩史を理解する上で、今日でも重要な文献のひとつである。日本では鎌倉時代後期の正中元年（1324）に初めて五山版——五山版とは鎌倉時代中期から室町時代末期にかけて、京都・鎌倉の両五山を中心とした禅宗関係者の手によって出版された典籍の総称である——として覆刻されている。

本館所蔵の『詩人玉屑』の書誌を記すと、以下の通りである。貴重書室配架。請求記号は921 / GIK / 1～10。21巻10冊。縦26cm×横16cm、やや縦長の唐本仕立てである。表紙は縹色。外題は「詩人玉屑(一)」。書入れ・付箋はなく、また虫損もない。保存状態は良好である。本館所蔵本は和刻本漢籍で——漢籍の唐本に対して、日本で再製した漢籍の版本を和刻本漢籍という——、その第10冊末に「寛永十六年己卯九月吉辰／二条通鶴屋町田原仁左衛門新刊」と刊記が入っている。寛永16年は西暦1639年で、徳川幕府は第3代家光の治世である。なお、本書と同じ、寛永16年9月京都田原仁左衛門印本『詩人玉屑』は、長澤規矩也編『和刻本漢籍随筆集』第17輯（汲古書院）に、その影印本が収録されている。また、近世の和刻本『詩人玉屑』は、この寛永16年（1639）版以外に正徳2年（1712）版と無刊記本の2種が報告されている。

改めて本館所蔵本を見ると、その各冊の表紙右下隅に「田藩文庫」、そして、各冊第1丁表に「田安



第1冊第1丁表

／府芸／堂印」，「献英楼／図書記」，「福井大学／図書之印」の蔵書印がそれぞれ押されている（写真参照）。これらの蔵書印によって本館所蔵書は旧田安徳川家旧蔵本であることが知られる。

ここにいう田安家は徳川御三卿のひとつ。徳川第

8代将軍吉宗^{よしむね}の次男、宗武^{むねたけ}に始まる名家である。田安家からは寛政^{かんせい}の改革で知られる松平定信^{まつだいらさだのぶ}をはじめ、福井藩松平家を襲封^{しゅうふう}した慶永^{よしなが}、紀州徳川家を継いだ頼倫^{よりのり}などが出ている。田安家は、明治維新以後は伯爵を与えられた。

田安家の蔵書に関しては国文学研究資料館編『田藩文庫目録と研究』（青裳堂書店、平成18年3月刊）に詳述されている。田藩文庫は田安家の文庫名である。因みに、文庫名に田藩とあるが、田安家が藩を起こしたわけではない。家老以下の主な家来は幕府の役人の出向で、その所領は摂津・和泉・播磨など合わせて10万石であったが、賄料^{まかないりょう}という扱いであった。

『田藩文庫目録と研究』によると、田藩文庫の蔵書は、享保16年（1731）、初代宗武が17歳で田安家を賜わった時から始まったという。宗武は江戸城本丸から譲渡された漢籍を中心とする書籍を基礎に、自らが好むところの服飾や音楽などの書籍を蒐集^{しゅうしゅう}した。その後、第3代齐匡^{なりまさ}が琴書^{きんしよ}を中心とする楽書をはじめ、世尊寺流^{せそんじ}及び持明院流入^{じみょういん}木道伝書^{じゅぼくどうでんしよ}、小笠原家^{おがさわらけ}の兵法書^{へいほうしよ}など、蔵書の拡充に尽力した。近

世の田藩文庫に所蔵されていた蔵書の実態は不明であるが、大正元年（1912）に作成された『御書物目録』には、1920点の書目が収載されており、その蔵書の内容を窺^{うかが}い知ることができる。

田藩文庫は明治以降、蔵書^{きたく}の寄託・売立^{うりたて}が行なわれた結果、現在では国文学研究資料館をはじめ、慶應義塾大学、国立公文書館、国立国会図書館、名古屋市立蓬左文庫^{ほうさ}などに分散して所蔵されている。

本館所蔵の『詩人玉屑』が田安德川家旧蔵本であることは先に述べたが、更に詳しく見ると、本書に捺されている「献英楼／図書記」の蔵書印が、『田藩文庫目録と研究』に拠ると、田安家第3代齐匡^{なりまさ}の蔵書印と推定されている。よって、本書は齐匡^{なりまさ}の時代に田安家の文庫に入ったのではないかと推測される。また、大正元年（1912）作成の『御書物目録』に「984 漢詩4 詩人玉屑 寛永16年和刊 10冊 10冊」と見えるのが、おそらく本館所蔵本のことであろうと推定される。しかし、大正元年（1912）以降、本書が本館に購入されるまでの経緯については不明である。

私の推薦書

女性をとりまく貧困と暴力 — 直視し、世界を変える力に —

教育地域科学部人間文化講座生涯学習准教授

羽田野 慶子

はたの・けいこ

- ①ニコラス・D・クリストフ&シェリル・ウーダン著『**ハーフ・ザ・スカイ彼女たちが世界の希望に変わるまで**』(2010年, 英治出版)
- ②鈴木大介著『**出会い系のシングルマザーたち**』(2010年, 朝日新聞出版)
- ③同『**家のない少女たち**』(2008年, 宝島社)
- ④西原理恵子著『**この世でいちばん大事な「カネ」の話**』(2008年, 理論社 YA 新書)

貧しい境遇からだまされて人身取引(人身売買)され、売春をさせられる少女。戦場で性暴力の犠牲になる女性。十分な医療を受けられず重大な障害を負う妊産婦。①は2008年にアメリカで出版されベストセラーになった本で、「女性であること」を理由に理不尽な暴力を受けながら、絶望の淵から生還し力強く生き抜く女性たちや彼女らの支援者を取材したものだ。著者はピューリッツァー賞を受賞した二人の『ニューヨーク・タイムズ』記者。世界中の貧困地域、紛争地域で現実に行っている女性に対する圧倒的な暴力は、それが綴られた文章すら目をそむけたくなるほどだ。女性たちが暴力にさらされる背景には、女性の経済的自立を阻み、貧困へ追いやる社会のジェンダー格差、そしてそのような女性差別を温存する文化や人々の意識がある。暴力の犠牲となる女性た



ハーフ・ザ・スカイ

ちに同情や憐憫を向けることはたやすい。しかしそうした感情のみ向けられることは、彼女たちの本意ではない。なぜなら彼女たちは深刻な人権侵害にさらされながら、なお生きる希望を持ち続け、自らの不利な状況を変えようとする強さを持っているからだ。タイトルの「ハーフ・ザ・スカイ」は中国の諺で、「空の半分は女性が支えている」の意。世界の半分を占めるはずの女性が差別や暴力にさらされ、力を奪われている状態は、本来あるべき世界の姿ではない。人身取引の被害者は日本にも送り込まれ、性産業で働くことを余儀なくされていることがわかっている。まずは現実を知り、そして変化を起こすため一人ひとりが行動に移すことが大切である。

ところで、女性をとりまく貧困と暴力は、豊かな先進国である日本ではそれほど深刻ではないと思う人も多いだろう。しかし豊かな社会の内部にも格差は確実に存在している。②と③は、DVを受け離婚したシングルマザーや虐待を受けた少女が社会の中で居場所をなくし、違法な性産業へ吸い寄せられている実態を描いたルポルタージュ。表面的には「出会い系」や「援交」などとセンセーショナルに報道され、性に奔放な女性たちというイメージをまといわされて



出会い系の
シングルマザーたち

いる女性たちの背後に、いかに圧倒的な貧困と暴力が存在しているかを丁寧な取材で明らかにしている。この種の問題はとかく興味本位に取り上げられがちだが、本書では彼女

たちの直面する貧困と暴力の実態だけでなく、彼女たちを欲望の対象とする買春男性の身勝手さや、母子世帯支援や児童福祉といった社会保障制度のあまりの未熟さにも批判の目を向ける。

女性たちが貧困と暴力から逃れるための根本的な処方箋の一つは教育である。女性が経済的に自立し、安定した生活を送るためには



家のない少女たち

教育によるエンパワーメント（力をつけること）が不可欠だ。④は漫画家の西原理恵子が生まれ育った貧しい境遇から奨学金で東京の大学に進学し、イラストレーターの仕事を経ながら漫画家として成功した現在までを平易な文章で綴った自伝。働いて「カネ」を稼ぐことの大切さを率直に説く、力強くも優しさにあふれた語り口に勇気づけられる人も多いだろう。

女性をとりまく貧困と暴力を直視し、世界を変える力にするために、これらの書物はきっとその入り口になるはずだ。



この世でいちばん大事な「カネ」の話

私の愛読書

附属図書館運営委員

菊田 健一郎

きくた・けんいちろう

医学部に入ってみると医学部生がどうやって医師になっていくのか具体的なイメージがないことにすぐ気付きました。「あまりよく考えずに入ってしまったが、本当に医師になてなれるのだろうか」と正直なところ不安に直面しておりました。友達に聞こうにも、不幸にも全学のクラブに入ってしまった、同級生は法学部や工学部ばかりで医学生は私一人で相談しようもありません。当時は皆が全く授業に全く出ない時代であり、同級生の知り合いもおらず、医学部先輩とのつながりもあり

ませんでした。何よりメールも携帯もありませんから、入ってくる情報量が今と比較にならない少なさでした。そんなとき、古本屋で見つけたのが渡辺淳一の「白夜(三部作)」です。これは渡辺淳一氏の自伝的小説で、主人公 伸夫は不安に思いながら札幌医大に入学します。看護



白夜

婦をはじめ様々な女性と付き合いながら（ここも結構ドキドキしながら読みましたが）人間的にも成長していきます。整形外科医となり外勤先で炭鉱災害に出会ったときのパニック、気胸を治療できず死なせてしまった悔しさ、初めて椎間板ヘルニアの手術をした時の一人前になった誇らしげな気持ちがさすがにしく描かれています。子宮外妊娠の患者を一人で手術し、出血が止まらず血圧が触れなくなり、もう駄目だと諦めたにも関わらず蘇ってきた女性をみて、生命力の強さに驚き、不気味ですらあると述べるなど、女性学としても勉強になります。自分の研究のため大学院で何匹もラットを殺さねばならないやりきれなさ、外科医にとって大切なのは本当に患者を思う心なのか、技術なのか、良い外科医とは何なのかなど、今でも同じ疑問は解決されず私の中に残っています。いろいろな面で、自分を重ね合わせることができるバイブルと言える小説で、何度も読みました。医学生の人には是非一度読んでいただきたいと思います。

私の読み方は、作者を決めたらある程度その著者ばかりを読みふけり、飽きたら別の著者に移るやり方です。渡辺淳一氏の作品は、最近の愛欲、不倫にテーマが移ってからは読まなくなりましたが、それまでの作品は殆ど読んでいます。中でもお勧めは二人の銃創患者の処置の違いがその後の人生を大きく違う



光と影

者に変えてしまった直木賞受賞作品「**光と影**」，札幌医科大学での和田心臓移植事件を扱い、医師をやめるきっかけとなった「**ダブルハート**」，野口英世の真実の姿を描いた

「**遠き落日**」，大学講師をやめ一般病院に自ら異動した外科医の謎をめぐる「**無影燈**」，オホーツクの流氷に大人のプラトニックラブを描いた「**流水への旅**」などが私のお勧めです。

しかし渡辺氏の作品は、元来医師と言う理系の人間の作品で、科学的というか即物的です。また私の学生のころはいわゆるバブル経済全盛の時で物質万能主義の味気ない世の中に少し嫌気がさしておりました。こんなときはどうしても理想主義、白樺派の文学が恋しくなります。「仲良きことは美しき哉」で有名な武者小路実篤の「**友情**」，「**愛と死**」はもし読んだことがなければ、お勧めします。いわゆる文学の中でも、漱石に大人の諦観がありますが、逆に言うとあまり元気が出る作品とは言えず面白くありません。また太宰や芥川は好きな人は好きな



友情

んでしょうが、暗すぎます。その点、実篤は晴れの日や北陸のような澄んださわやかさ、明るさがあります。さわやかな気持ちになりたい時にお勧めです。

最近では歴史にはまっています。歴史が大切と感じたのはつい最近ですが、特に近代日本が形作られてきた、明治維新から戦前までは、日本人なら知っておかなければなりません。しかし、高校の歴史の授業がこのあたりでしりすばみに終わっていることが多かったことや、長州藩、薩摩藩、幕府の善悪が複雑で理解しづらくなっています。こんな方は国民的小説家 司馬遼太郎を是非読みましょう。しかし氏の小説は長いので、いきなり取り組むと疲れてしまう人もおられると思います。そ

れではまず何から読むべきか？私は友人の勧めで、「**花神**」から始めました。これは長州（山口県）の一介の蘭学医師であった村田蔵六（大



花 神



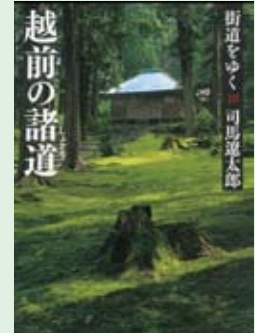
翔ぶが如く

村益次郎）が田舎医師から、兵器資料翻訳家となり、最後は幕府軍を打ち破る総司令官として活躍し、とうとう徳川幕藩体制に引導を渡すに至る様子を描いたものですが、とにかく面白いです。当時の日本には士農工商の身分区分けがかなり崩れ、中間階層にとっても優秀な人間が数多くありました。特に長州からは続々と世の中に出てきます。これらの系譜のため日本の総理大臣は山口県出身がとても多いのです。なぜ長州がこれほどすごかったのかは、偉大な思想家 吉田松陰と凡庸な毛利藩主が関係しているようです。これらの時代背景と、何より高杉晋作のカッコよさを描いた「**翔ぶがごとく**」も合わせて読んでみてください。そして司馬遼作品の金字塔、日本が国際的にやっていける確信を抱いた、日露戦争における東郷平八郎提督と秋山兄弟によるバルチック艦隊撃滅を描いた「**坂の上の雲**」はやはり最高傑作です。同時に、福井は田舎だ田舎だと思ってい

る人たち、今から 30 年以上前はもっともっと田舎だったようです。司馬遼は古き良き時代の福井にも来られ、松岡の古い城下町風景、平泉寺の歴史と勝山の由来、道元と寂円の関係、大衆化した永平寺と道元の絵を抱いて寂円が座禅し続けた宝慶寺の美しさ、福井の寿司の安くて旨いことなどが「**街道を行く（越前の諸道）**」に詳しく書かれています。

最後に、私はこれらのような真面目な本ばかり読んでいるわけではありません。音楽鑑賞を趣味としない私は一種の活字中毒で、基本的に活字であれば何でも読みます。大学院生のときは英国科学雑誌 Nature と漫画の少年ジャンプを交互に読んでいました。内田康夫の旅情探偵小説 浅見光彦シリーズ、門田泰明 特命武装検事・黒木豹介シリーズなどスパイもの、アクションものも大好きです。とりわけ、アーサー・コナン・ドイルのシャーロックホームズは「**緋色の研究**」から「**最後の挨拶**」まで揃えて何度も読みました。皆さまにも硬軟を区別しない乱読をお勧めいたします。

（医学科感覚運動医学講座脳脊髄神経外科 教授）



街道を行く



緋色の研究

「英語、勉強しなきゃ」と 感じてませんか？

附属図書館運営委員

吉田 俊之

よしだ・としゆき

英語を公用語とする国内の会社が話題になるなど、英語の能力がますます重要視される昨今です。学生の皆さんも、専門分野によらず、「危機意識」をお持ちのことでしょう。小文では、筆者がこれまでに読んだり手にした英語に関する解説書の中から、「これは役に立った」、あるいは「学生さんをはじめとする皆さんにもお薦めしたい」と感じた以下の6冊

- [1] 富岡隆明著, “**英語らしい英文を書くためのスタイルブック**”, 研究社 (2006 年)
- [2] 原田豊太郎著, “**例文詳解 技術英語の冠詞活用入門**”, 日刊工業新聞社 (2000 年)
- [3] 石田秀雄著, “**わかりやすい 英語冠詞講義**”, 大修館書店 (2002 年)
- [4] ランガメール編集部, “**a と the の物語**”, (2007 年)
- [5] 遠田和子著, “**Google 英文ライティング**”, 講談社インターナショナル (2009 年)
- [6] 竹岡広信, 安河内哲也著, “**この英語本がすごい!**”, 中経出版 (2010 年)

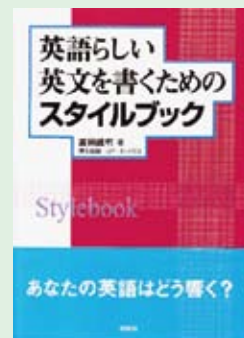
を紹介したいと思います。なお、著者の専門分野はコンピュータ上での画像処理で、英語が専門ではありません：－)。

学生の皆さんも、4年生あるいは大学院に進学すると、論文の要約などを英文で書く必要が出てくると思います。そのような学生さんに、「はじめの一歩として薦められる何か良い本はないだろうか」と探していたところ、見つけたのが [1] の本です。初めて本格的な英文を書く際は、しっかり書かれた過去の文献を参考にするのがベストと思うのですが、その前にこの本を一度読んでおくと、か

なりレベルアップするよう思えます。本文128ページ程度のすらすら読める本で、「英語嫌いの方」にもお薦めです。

もう少しレベルが上がって論文全体を英文で書くようになると、まず悩まされるのが「冠詞」の用法ではないでしょうか。筆者も、英語で論文などを書いた際は、ネイティブの知り合いや専門サービ스에 依頼して添削をしてもらってきましたが、冠詞の用法はよく修正されました。「冠詞、きちんと使えるようになりたいなあ」と思っていたときに見つけたのが [2] の本です。書名通り工学分野向けの本で、例文には化学用語が頻繁に出てくるのですが、筆者はこの本 [2] を読んで、ようやく冠詞の使い方が解ったように思いました。

この本に次のような解説があります。イギリスの小さな子供さんでも、道端で猫が死んでいるのを見つけて帰った後に、お母さんに、“The cat’s dead.” と言ってしまうらしいのです。もちろん、お母さんは “Which cat ?” と聞き返します。こうして冠詞の使い方を覚えていくのだということです。この “cat” の後に “on the road” がついたらどうでしょ



英語らしい英文を書くためのスタイルブック



例文詳解 技術英語の冠詞活用入門

う、日本の高校英文法では“The cat on the road”と教えますが、この場合は“A cat on the road”でなければならない、というのが[2]の本の教えです。「意味がさっぱり解らない」という方にこそ[2]をお勧めしたいのですが、上述の通り“工学向けに”書かれており、専門違いの方には読み難いのが残念なところでは。冠詞については、[3]や[4]も解り易くていいか、と思っています。

ところで、筆者は最近、英文を書いているときに「こういう表現でいいのかな」と感じた際は、固有名詞等を除いた文章全体をGoogleやYahoo!などの検索エンジンに入れ、ヒットするかどうかを見て良し悪しを判断しています。それで目に止まったのが[5]の本で、英文を書く際に非常に有効な「検索エンジン」の使い方が解説されています。

皆さんは、Googleで「*」って使っていますか？この「*」はワイルドカードと呼ばれるもので、情報系以外の方には馴染みがないかも知れませんが、使いようによっては非常に便利です。例えば、「データをPDFにする」と言いたいけど動詞が思い浮かばない場合は、Googleに、“to * data to PDF”と入れて検索してみてください、便利です。と、というような内容のみならず、[5]は、英文ライティングの基本的なスキルについても解説



わかりやすい
英語冠詞講義



a と the の物語

されている面白い本です。

ただし、検索エンジンの利用も程度ものです。筆者は、上記のように英文を検索する際、jp(日本)のサイトがヒットした場合はスキップしています

(別に日本人の英語を信用しないわけではないのですが)。依存し過ぎには、ご注意を。

最後に、「何か英語のいい本ないかなあ」と思って本屋に行くと、ありとあらゆる本が出ていて、「どれを選んだらいいのかよく解らない」と感じたことはないでしょうか？そういう人向けかどうかは解りませんが、[6]のような本も出ています。この本では、文法や英会話、TOEIC等の分野別に、数多くの“英語本(教材)”の内容や使い方が解説されており、自分にあった教材を選ぶ際の参考書として利用できます。こ

この本をパラパラ見ていると、ちょうど[5]の本が紹介されているのが目に入りました。それで、「他にも役に立ちそうな本が解説されているかも」と思い、ここに紹介させていただきました。これから英語を少しでも勉強しようと思っている皆さんは、こういう本を手がかりにして始められると良いかも知れません。

以上、何かの参考にしていただければ幸いです。

(大学院工学研究科情報・メディア工学専攻メディア・情報処理 教授)



Google
英文ライティング



この英語本がすごい！

附属図書館展示企画

平成 21 年 5 月に総合図書館が、平成 22 年 3 月に医学図書館が増改築を終え、それぞれリニューアルしました。それを機に両図書館で開催した展示企画について報告します。

平成 21 年 5 月 29 日(金)～6 月 18 日(木) (好評のため 31 日まで会期延長)

福井大学総合図書館リニューアルオープン記念展示「郷土の歌人 山川登美子展」

当館所蔵の山川登美子関連資料を広く一般公開し、郷土の生んだ歌人山川登美子の足跡を紹介しました。初めて鉄幹らと催した句会を記念する署名入り扇や、日常の断片、或いは習作などを書き留めたノート類などの貴重資料はもとよりのこと、『恋衣』、『明星』掲載歌をはじめ、習作、生前未発表作をも展示し、実作者登美子の全生涯を展望しました。



平成 21 年 9 月 1 日(火)～28 日(月)

往来物(教科書)展 ―江戸から昭和(戦前戦後)まで

往来物とは、主に寺子屋で使用された初歩教科書の総称です。教科書の元は貴族子弟の学習用に編まれた往復書簡(模範文)であり、手紙文の行き来(往来)の意から「○○往来」という呼称が一般化しました。所蔵する往来物(教科書)約 80 点を紹介しました。



平成 21 年 10 月 2 日(金)～18 日(日)

『日本一短い手紙』と“かまぼこ板の絵”の物語コラボ展 in 福井大学

福井県坂井市(財)丸岡文化振興事業団が主催する“一筆啓上賞”『日本一短い手紙』と、愛媛県西予市にある市立美術館(ギャラリーしろかわ)で毎年募集されている「かまぼこ板の絵」とのコラボ展を開催しました。医学部でも開催され、手紙と絵が人の心にもたらす「癒やし」についての心の動きに関する研究が生まれました。



平成 21 年 11 月 4 日(水)～12 月 8 日(火)

総合図書館今昔―よみがえる旧図書館

耐震改修及び増築工事を終え、総合図書館がリニューアルオープンしてから半年が経過したころ、学生から自分たちの学習・研究を支えてきた旧総合図書館の姿を後世に残したいという声があり、学生を中心に新旧図書館の模型を製作。展示では、この模型をはじめ、旧福井大学開学史から現在までを、図書館を中心とした写真パネルで紹介しました。



平成 21 年 12 月 18 日(金)～平成 22 年 1 月 14 日(木)

越前若狭いろはかるた―完成記念原画展

「越前若狭いろはかるた」は、福井大学の教職員有志と県内の学校教員で構成された「ふくい文化研究会」が、専門領域を超えて新たな教材開発を目指して取り組んだ郷土かるたで、その原画展を開催しました。かるた作成にあたっては、読み句を県内各地から広く公募し、その読み句に対する原画の版画を教育地域科学部の湊七雄准教授が担当、書を同研究科大学院生中川尚子氏が担当しました。読み句には県内各地の名所旧跡などがふんだんに盛り込まれ、木版画と書が織りなす美の世界は、来場者を魅了しました。



平成 22 年 1 月 22 日(金)～3 月 22 日(月)

総合図書館が所蔵する浮世絵展

当館所蔵「浮世絵版画撰集(アダチ版画研究所 1961)」に収められた現代の彫師と摺師による初期から後期にいたる復刻版浮世絵約 40 点を展示しました。会場には、浮世絵版画の他、立版古(たてばんこ)といわれる江戸時代の組み上げ絵を再現したペーパークラフトや、アダチ版画研究所による「彫り」「刷り」の様子を紹介などを行いました。



平成 22 年 4 月 1 日(木)～6 月 30 日(水)

福井大学医学図書館リニューアルオープン記念展示 医学図書館のあゆみ

昭和 57 年に旧福井医科大学附属図書館が竣工してからの約 30 年の医学図書館のあゆみを写真と年表で振り返りました。医学図書館設立時に収集された明治期の医学書の展示も行われました。



平成 22 年 4 月 5 日(月)～5 月 31 日(月)

新入生のための総合図書館利用ガイド展

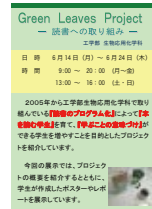
新入生が初めて大学図書館を利用するにあたって、大学図書館の魅力や大学図書館を利用した学習方法などをパネル展示しました。会場には、新入生が使用していた頃の国語や算数の教科書、新入生が生まれた頃の新聞の縮刷版などを展示しました。また、福井紹介コーナーとして、「文学に描かれた福井」と題して著書の展示を行いました。



平成 22 年 6 月 14 日(月)～6 月 24 日(木)

Green Leaves Project —読書への取り組み

工学部生物応用化学科では、この数年来、学生に専門科目への興味を持たせ、卒論、大学院での研究に意欲を持たせることを目指して、教員が推薦する図書をツールとしたプロジェクト「Green Leaves Project (GLP)」を展開しています。今年度の新入生が、宿泊研修でつくった推薦図書のポスター、ポスターを作ったメンバーが提出したレポート、これまでの活動で得たことのまとめを展示しました。



平成 22 年 7 月 15 日(木)～9 月 1 日(水)

福井豪雨映像アーカイブス展

平成 16 年 7 月 18 日未明の福井豪雨は足羽川上流域に甚大な被害をもたらしました。災害復旧工事が進行し、被害の爪跡が消えていく中で、住民の福井豪雨に対する記憶を風化させないため、「福井豪雨映像アーカイブス作成委員会」によって映像媒体 50 本、写真などの静止画像約 50,000 枚が集められ、公開用に「福井豪雨映像アーカイブス」DVD が作成されました。全ての資料は総合図書館で保管されています。福井豪雨から 6 年目にあたり、あの教訓を風化させてはいけないという思いから、公開可能な編集前の生データも含めて展示しました。



平成 22 年 10 月 15 日(金)～11 月 12 日(金)

茶室おこし絵図展—平面から立体へ—

『おこし絵図』とは、「平面図を描いた台紙に各壁面の図を貼り付け、それを垂直に立てることによって立体的な空間を紙上に組み立てて見る仕組み」であり、建築図法の一つとして用いられた紙製の折りたたみ式建築模型図です。当館所蔵の『茶室おこし絵図集 全 12 集(墨水書房)』は、松平楽翁が居ながらにして茶室を楽しむべく作らせたおこし絵図の復刻です。建物(茶室)の写真がある 26 点について、江戸時代の 3D 模型とも感じられるおこし絵図を実際に組み立て、建物写真と共に展示しました。



平成 23 年 1 月 19 日(水)～24 日(月)

「専門分野に関わる本」に挑戦して見えてきた私たちが学ぶこと—生物応用化学科 3 年創成型化学演習発表会—

工学部生物応用化学科 3 年による「Green Leaves Project (GLP)」の発表展示を開催しました。入学以来蓄えてきた「読み・書き」の実力と、基礎科目と専門科目から学んだ知識を駆使して初めて読むことができる「専門分野に関わるサイエンスノンフィクション」にグループを組んで挑戦しました。



平成 23 年 1 月 27 日(木)～2 月 8 日(火)

教育地域科学部地域科学課程「地域課題ワークショップⅡ(生涯学習系)」受講生による展示企画—人身取引を知っていますか？

教育地域科学部地域科学課程の専門教育科目「地域課題ワークショップⅡ(生涯学習系)」で取り組んだ成果の発表展示を開催しました。受講生の学習のあゆみ、人身取引問題についての啓発パネル、被害者の女性たちがつくったフェアトレード製品などを展示しました。

**写真展示 3 部作**

平成 22 年 11 月 20 日(土)～平成 23 年 1 月 12 日(水)

写真展示—本の中のひとコマ ミステリー編—

平成 23 年 1 月 14 日(金)～2 月 9 日(水)

写真展示—本の中のひとコマ ファンタジー編—

平成 23 年 2 月 15 日(火)～3 月 15 日(火)

写真展示—本のある風景展—

写真同人ふおとんと写真部による図書館をキーワードにした写真展を開催しました。この活動は平成 22 年度工学部先端科学技術育成センター創成教育活動の一環として行われています。



田嶋記念大学図書館振興財団助成金 を受け展示ケースを購入しました。

平成 21 年度に田嶋記念大学図書館振興財団から助成金 100 万円をいただき、平成 22 年 7 月に展示ケース 3 台を購入しました。これにより、所蔵貴重資料を広く学生、教職員さらには地域住民に公開し、展示ホールを有効的に活用することができるようになりました。1 台は当館貴重資料である「山川登美子関連資料」を特殊資料室において常設展示しています。また 2 台は展示ホールにおける館内展示用として使用しています。今年度は、「福井豪雨映像アーカイブス展」、「茶室おこし絵図展」、「教育地域科学部地域科学課程『地域課題ワークショップⅡ（生涯学習系）』受講生による展示」等で使用しました。今後も図書館資料の公開を予定しています。どうぞご期待下さい。



山川登美子関連資料展示



福井豪雨映像アーカイブス展



図書館主要行事

2010.04.01

医学図書館リニューアルオープン

2010.07.28

総合図書館運営 WG

* 総合図書館の予算配分について

* 今後の資料整備方針について（電子ジャーナル及びデータベースについて）

2010.07.30

医学図書館運営小委員会

* 平成 22 年度予算について

* 今後の電子ジャーナル及びデータベースの整備方針について

2010.09.24

運営委員会

* 今後の資料整備方針について（電子ジャーナル及びデータベースについて）

2010.10.25

医学図書館運営小委員会

* 今後の電子ジャーナル及びデータベースの整備方針について

* 医学図書館増築について

2010.11.02

総合図書館運営WG（メール持ち回り）

* 今後の資料整備方針について（電子ジャーナル及びデータベースについて）

2010.04.23

東海・北陸地区国立大学図書館協会総会

* 本学当番校

* 22 年度事業計画など

2010.05.28

日本医学図書館協会総会（於：日本歯科大学）

2010.06.21

福井地区大学図書館協議会定例会議

* 本学当番校

* 平成 21 年度決算報告・事業報告

* 平成 22 年度予算案・事業予定

2010.08.27

福井地区大学図書館協議会夏季研修会

* 講演会

* 意見交換会

* 事例発表会

